

大動乱の欧州情勢を読解く BREXITとEUの行方

2017年9月21日

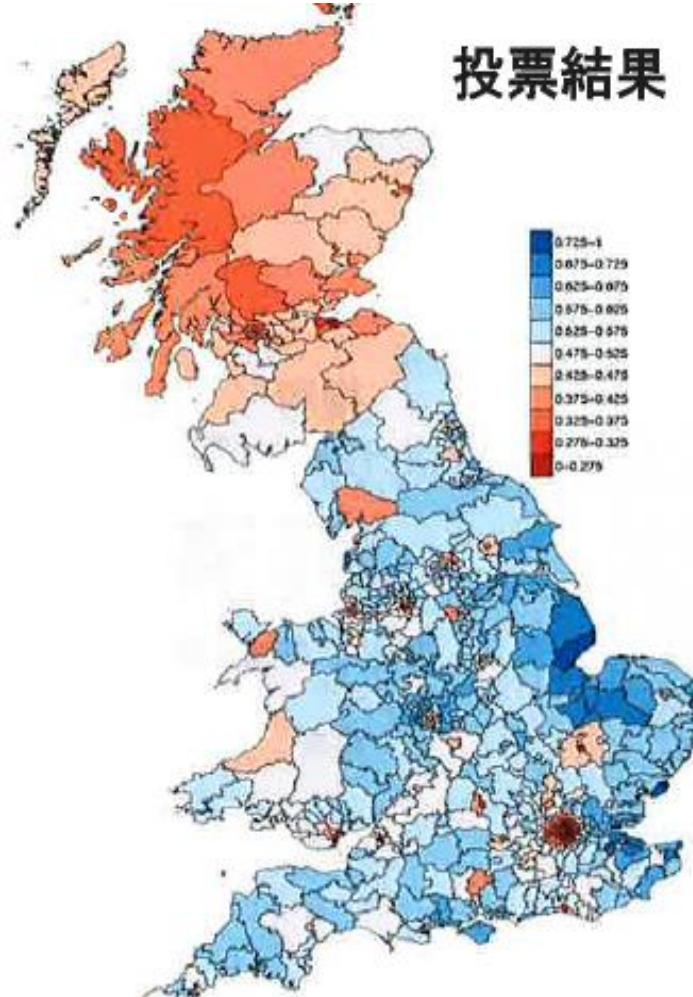
日本経済新聞社 大林 尚

改めてBREXITとは?

- 2016年6月23日 国民投票
 - 投票率72.2%(選挙権18歳以上、有権者登録4650万人)
 - 残留48.1% 離脱51.9%
 - 残留派の地盤である北アイルランド、スコットランド、ロンドンで投票率が伸びず
 - イングランド郊外都市、地方都市は離脱票が圧倒



- 2017年6月8日 投開票 下院総選挙は大番狂わせ



テリーザ・メイ、4/18突然の解散

- ハード・ブレグジット論者
 - 有権者の信任を得た政治リーダーとして党内を抑込もうとして失敗
- マニフェスト
 - 経済面のアドバンテージはあったが
 - **認知症税**の蹉跌、高齢層の支持がいつとき微妙に



ジェレミィ・コービン、激的な追上げ



- ソフト・ブレグジット支持
- マニフェスト
 - 富裕層課税と再分配
 - 医療・教育予算の拡大
- サンダース、メランションと同類
- 若年層の強い支持

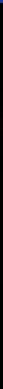
Britain's missing middle



Farron, Lib Dems



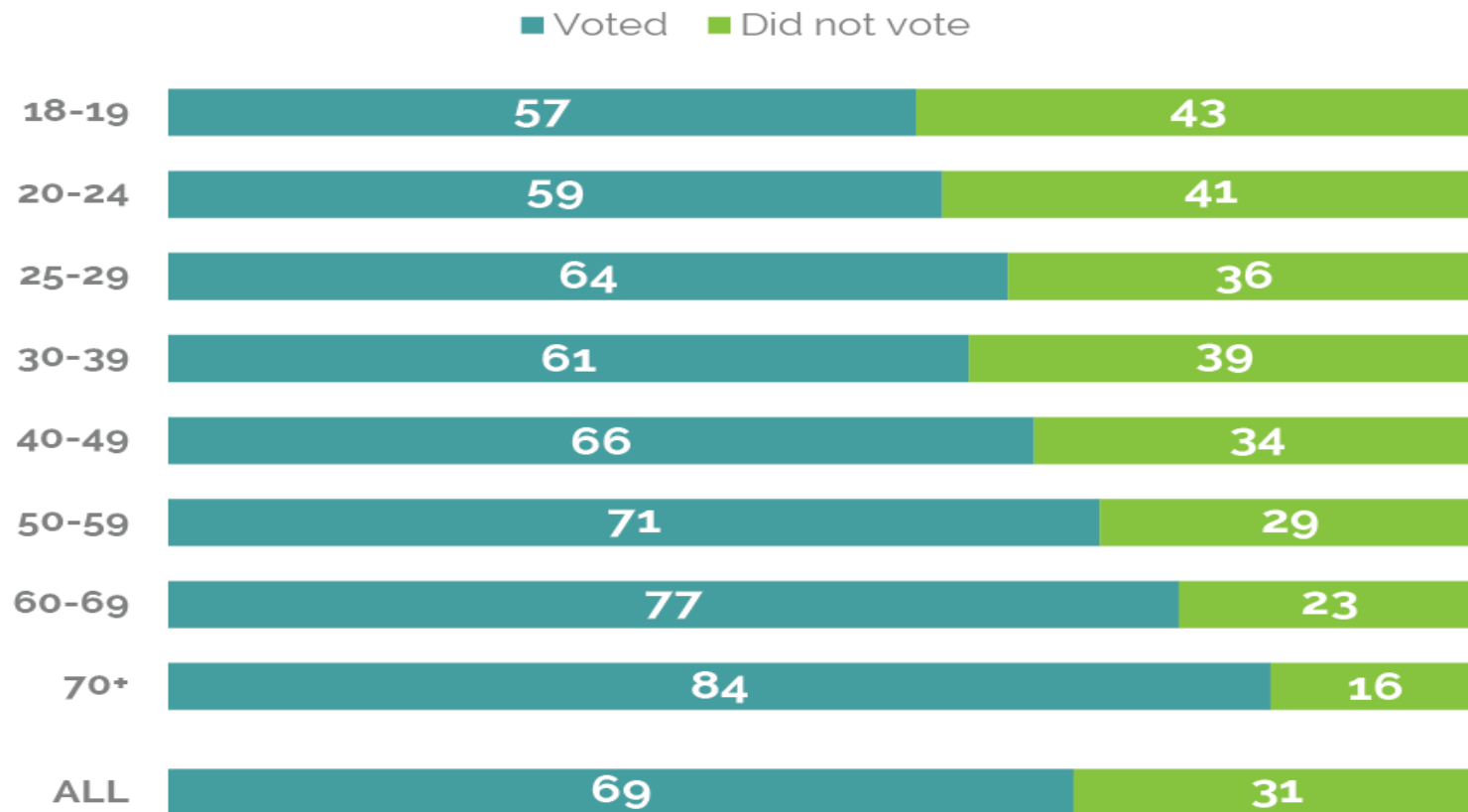
2017年6月7日「最後の訴え」 Facebookユーザーの評価(BBC News)

     						
	2,700	300	—	—	—	1,800
	4,100	2,500	—	—	—	350

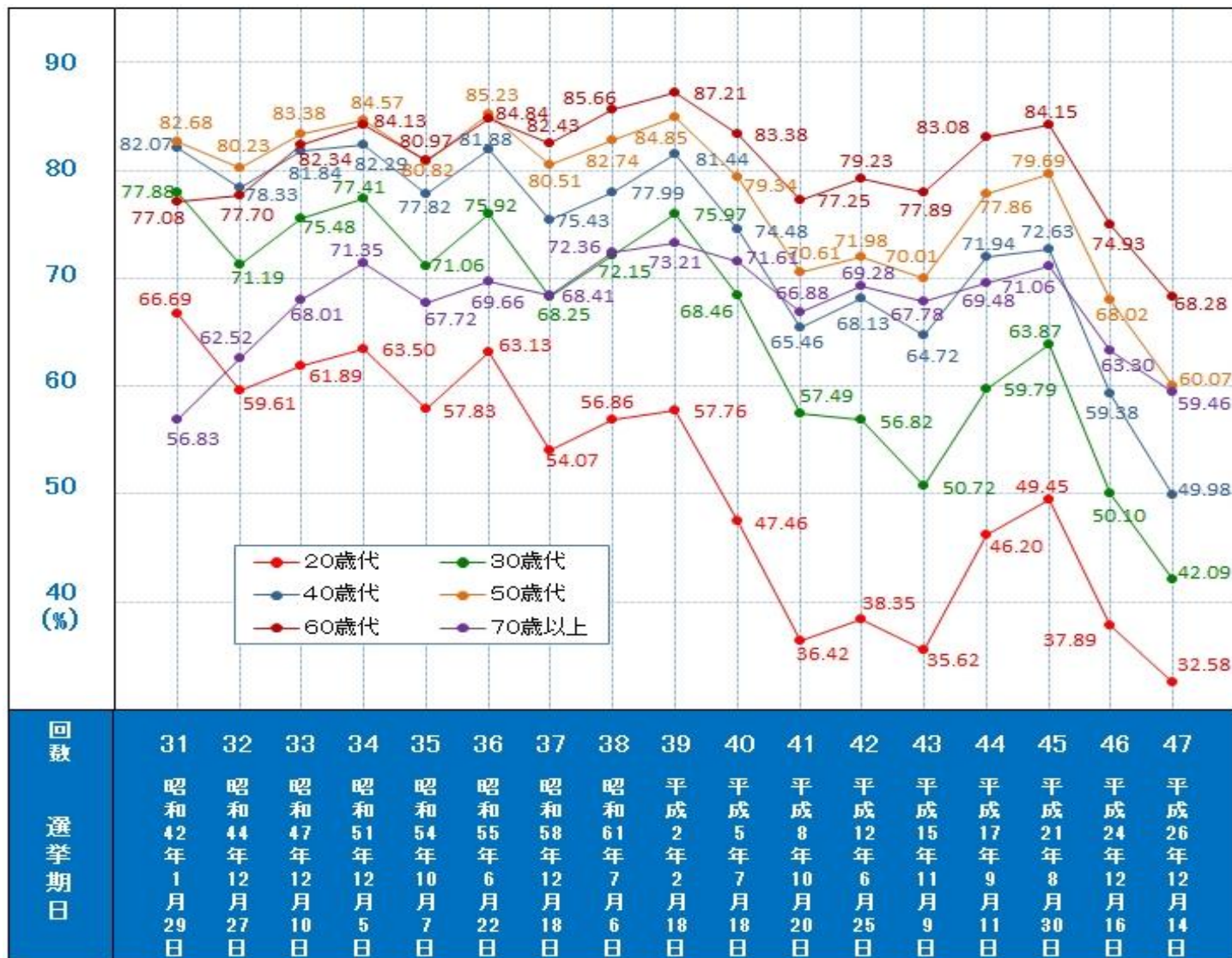
年齡別投票率

Turnout by age

Based on a survey of 52,615 GB adults about their vote in the 2017 general election



日本の総選挙の年齢別投票率



メイ政権とEU執行部

メイ首相



- “Brexit means Brexit”
- “No deal is better than Bad deal”
- デービス・ブレグジット相はハード論者
- 交渉期間は通知から2年

バルニエ首席交渉官



- 仏共和党ゴーリスト
- 「アングロサクソンの自由主義に敵意を持つ政治家」
- 4つの自由を受入れねば単一市場へのアクセス不可
- メルケル「いいところ取り駄目よ」

当面のポイント3点

1. 手切れ金
 - 最大€1,000億の中身は
2. EU市民の待遇
 - 持ちつ持たれつ
3. アイルランド国境
 - ベルファストーダブリン



日英首脳会談(8月30, 31日)

- 来日は英側の求めで実現
- 安全保障協力
 - 降って沸いた北朝鮮問題
 - 8/31, 駐英北朝鮮大使を召喚
- 経済協力
 - 「通商関係を新しいレベルへ」
 - 英米自由貿易協定はトランプとの間で合意
- 日本はEUとのEPAを優先



京都・上京区の表千家、不審菴

装いは日の丸、足元は?

- 来日前、「2019年に辞める」と漏らす?
- 来日中、BBCとのインタビューに「2022年まで任期を全うする」

-
- ほんとうは「中国へ行きたかった」説も



ついに、ごみ箱に放り込まれた

(6/11付オブザーバー紙)



在英日本企業

- 1,021社、うち874現地法人
 - 16万人を雇用
- 情報通信、製造業の欧州統括
 - 自動車3社で英生産台数(170万台)の半分
 - 日産「さらに2割増産」の意図
- 金融業はパスポートが頼み
 - 大陸「移転」の実相は?
- R&D拠点158カ所。ロンドンやケンブリッジに集積
- 製薬企業



欧州で人気の日産キャッシュカイ

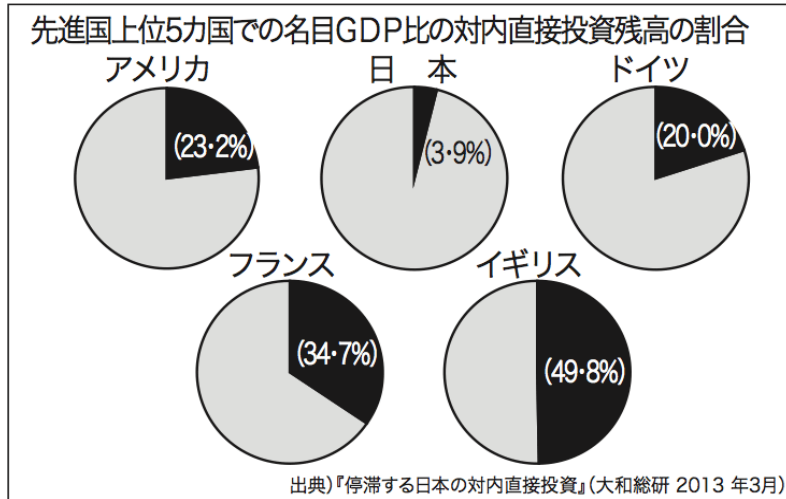
もうひとつの日本強み、鉄道事業

- 日立は鉄道車両工場を鉄道発祥の地に新設
- 今年に入り、JR東と三井物産はウエストミッドランズ鉄道の運営権
- メイ首相を「のぞみ」に乗せたワケ.....



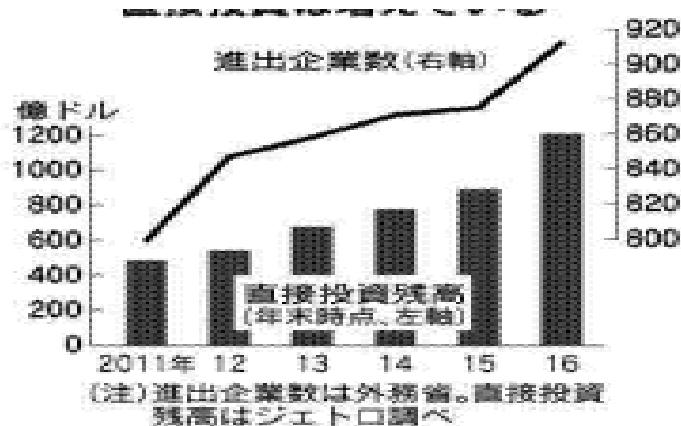
15年9月、ニュートン・エイクリフで

人と金を吸引し続ける英国



「投票結果は買収と関係がない。英国は政治的に複雑な状況にあるが私はまったく逆の立場だ。今こそ英国に投資するよい時機だと考えた」

(邦貨換算で3兆3000億円)



メルケル首相 G7後のスピーチ

- 我々が他者だけに頼れる時代は終わった
- 欧州は自らの命運を自らで握るべきだ
- 米英露を含む近隣国との友好関係が重要だ
- 自らの未来のために自ら戦わねばならない



連邦議会選 4選へ安定

- 有権者「安定したリーダーを」
 - トランプ効果とプーチン効果
 - 不穏な東欧・バルカン情勢
- 地政学リスクへの感応度高い
 - CDU、難民政策を修正
 - 寛容なSPDに逆風
- 欧州統合は大転機に
 - メルケルだけでは牽引できない
 - 大陸西側でサークル化



マクロン大統領が歩む険しい道

- オランドの経済失政
 - 若年失業率25%
- 多文化主義の二面性
 - 国力の源泉は人口増
 - ムスリムへの接し方
- 意外に好かれていない
 - 「ルペンよりマシ」
 - 「目つむって投票するしか」
- フランス病の克服には



英保守党リーダーの視座



1930年2月

「我々はヨーロッパと連繫しているがその一員ではない。我々はヨーロッパと共にあるが(with Europe)、ヨーロッパのイギリスではない(of Europe)」 「我々はヨーロッパに関心を持ち、結合しているが、ヨーロッパに組込まれているわけではない」



1988年9月

「ソ連のように中央からすべてを仕切ろうとしていた国が今では成功の鍵は権力を拡散させることだと考え、中央から自立した決定を尊重するようになった。というのに共同体のなかに逆の方向に進んでいるようにみえる人がいるのは皮肉だ。イギリスの国境を取除いたとしてもブリュッセルから新たに絶大な権限が行使されるのであれば意味はない」

「フランスはフランスとして、スペインはスペインとして、英国は英国として、独自の慣習と伝統とアイデンティティを持っているからこそより強くなる」



シェンゲン圏に入らず、通貨はポンド

主権問題

